

お月見は一度だけじゃない？！

日本には昔から十五夜の日にお月見をして収穫を祝う風習があります。
十五夜以外の日にもお月見を楽しむ日があることをご存知ですか？

それは十三夜と呼ばれている日です。

十五夜から役1カ月後に巡ってくる十三夜は、
十五夜に次いで美しい月だと言われ、大切にされていました。

十五夜は平安時代の頃に中国から伝わり、宮中行事として始まった風習ですが、
十三夜は日本固有の風習として始まりました。

延喜19年（919年）に宇多天皇が十五夜の宴に加えて
その後も延喜の宴を行ったのが十三夜のお月見の始まりだとされています。

今では十五夜のお月見だけするという家族が多いですが、
昔はお月見といえば十五夜と十三夜のセットで行うということがほとんどでした。
どちらか片方だけお月見をするのは「片見月」と言われ縁起が悪いとされていました。

「十三夜に曇りなし」

という言葉があるように、
十五夜より十三夜の方が晴れることも多く
きれいな月が見られるようです。

今年の十三夜は
健康・幸せ・日ごろの感謝などを込めて
お子さんと一緒に月を眺めて見るのも
いいかもしれませんね。



ちなみに…

今年の十五夜は 10月1日 ・ 十三夜は 10月29日です。